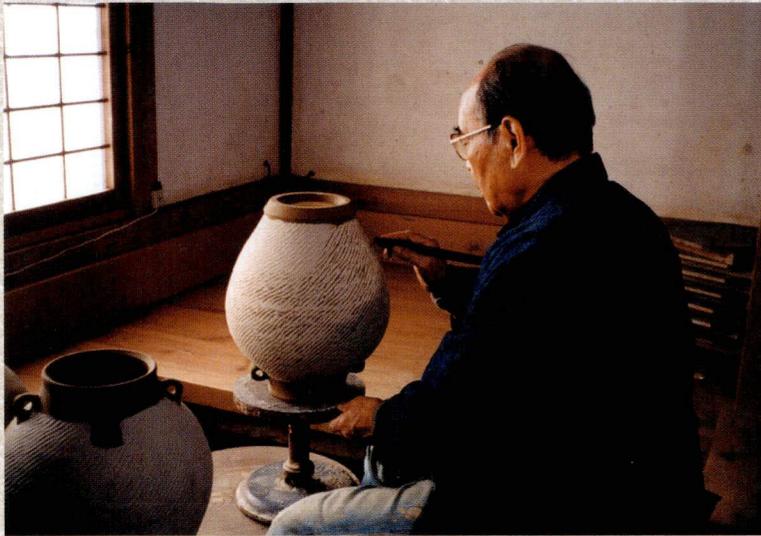


民芸陶器

(縄文象嵌)

島岡達三のわざ



民芸の健やかな陶器作りの精神を受け継ぐとともに、
組紐を器面に転がして押痕を作り、そこに化粧土を埋める
独自の縄文象嵌技法を確立した、人間国宝島岡達三。
その高度に洗練された穏やかで現代感覚にそった作風は、
民芸陶器の芸術的、工芸的価値をいっそう高めるものとして
国内外で高く評価されている。

◆カラー 37分 記録

◆販売価格 (消費税込)

16ミリ 273,000円
VHS 57,750円 (ライブ ライ-) 10,500円 (個人)
DVD 52,500円 (ライブ ライ-) 10,500円 (個人)

◆企画=文化庁

◆製作=(株)桜映画社

◆協力=益子参考館 日本民藝館 栃木県立美術館

◆製作スタッフ

製作 村山正実
脚本・演出 村山正実
撮影 西山東男
撮影助手 木村光男
今野聖輝
照明 藤来義門
編集 吉田栄子
ネガ編集 加納宗子
選曲 山崎宏
効果 帆刈幸雄
録音 堀内戦治
現像 IMAGICA
語り 樹木希林

島岡陶業の完成

武蔵野美術大学教授

水尾比呂志

平成八年、島岡さんは「人間国宝」に認定された。正確には陶芸部門の「重要無形文化財保持者」、指定名称は「民芸陶器(縄文象嵌)」、この部門では、故濱田庄司氏に次いで、二人目である。縄文象嵌は島岡さんの代表的な独自の技法で、学校教材用の縄文土器を複製する仕事のために、その施工方法を研究したことが縁となつて、組紐師だった父の作る紐を使って器胎に縄文を刻し、朝鮮陶磁に見られる象嵌の手法を応用して、生まれてきた。この手法は、用いる紐の種類や数、施文の仕方の変化によって無限の文様を作り出すことが可能だ。そして、これを五十年を超えて二環して用い続けてきたことにより、技は熟練して完成の域に達し、島岡陶における装飾法のひとつの伝統となった観がある。無論、縄文象嵌だけが島岡さんの特技なのではなく、白掛、掛合わせ、搔落し、ろう抜き、櫛目文、印文、流文、鉄砂、辰砂、呉須、赤絵、塩釉、灰被、火襷、窯変と器形に即し用途に応じた手法は多彩である。そしてそのどれもが、島岡さんの人柄そのままに穏やかに熟していて温かい。島岡陶の魅力は、その穏やかさと温かさにもあると言えよう。この映画にはそうした島岡さんの技と人がよく描かれている。

島岡達三の 「地釉(じぐすり)縄文象嵌壺」 制作工程

①壺の成形
蹴口クロで壺の成形をする。



②縄文付け
組紐を使い、成形の終わった素地(きじ)の表面に縄文の陰刻を施す。
(この手法は古くは縄文土器にも使われていた。)



③化粧土を塗る
象嵌用の白い化粧土を塗る。

④削り
乾いたところで、削りカンナで化粧土を平らに削り、文様を削り出す。



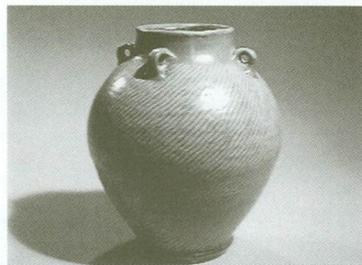
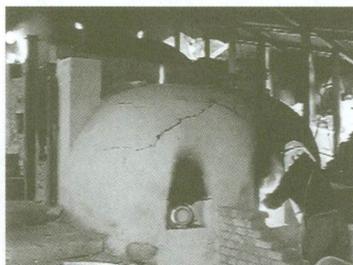
⑤灰の準備、地釉(じぐすり)を作る
釉薬(うわぐすり)に必要な灰の準備。
灰をよく水に晒し、灰汁(あく)を抜く。

⑥柄杓合わせ
配合の仕方は、益子で伝統的な「柄杓合わせ」

⑦施釉(くすり掛け)
ずぶかけ、柄杓かけ、流し描き、筒描き、蠟抜き。

⑧窯詰め

⑨焼成



◎島岡達三 略年譜

1919(大正8)年
3代続いた組紐師の長男として東京に生まれる。

1939(昭和14)年
東京工業大学窯業学科に入学、陶磁器を専攻。初夏、益子に濱田庄司を訪れ、卒業後の入門を許される。

1946(昭和21)年
復員後、濱田庄司門下となり、両親を伴って益子に移る。

1950(昭和25)年
濱田庄司の斡旋により栃木県窯業指導所に就職。この年、古代土器標本複製の仕事に協力し、縄文の技法を習得する。

1953(昭和28)年
益子に築窯、作家活動に入る。

1962(昭和37)年
日本民藝館新作展で日本民藝館賞を受賞。国内のみならず、カナダ、アメリカ、イギリス、ドイツなどでも個展を開催し、ワークショップや集中講義で日本の民陶の精神を伝える。

1994(平成6)年
平成5年度日本陶磁協会賞金賞を受賞。

1996(平成8)年
民芸陶器・縄文象嵌にて重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受ける。

重要無形文化財指定・伝統のわざの心を伝える

◆木の生命よみがえる —川北良造の木工芸— 33分

販売価格
16ミリ=210,000円
VHS=25,000円(学校・一般価格)
50,000円(ライブラリー価格)

◆小鹿田(おんた)焼 34分

販売価格
16ミリ=240,000円
VHS=55,000円

◆十三代今右衛門 薄墨の美 36分【英語版あり】

販売価格
16ミリ=215,000円
VHS=25,000円(学校・一般価格)
50,000円(ライブラリー価格)

◆重要無形文化財 輪島塗に生きる 34分【英語版あり】

販売価格
16ミリ=210,000円
VHS=25,000円(学校・一般価格)
55,000円(ライブラリー価格)

◆藤本能道の色絵磁器 —釉描加彩—33分【英語版あり】

販売価格
16ミリ=210,000円
VHS=25,000円(学校・一般価格)
55,000円(ライブラリー価格)

◆呉須三味 —近藤悠三の世界— 32分

販売価格
16ミリ=190,000円
VHS=25,000円(学校・一般価格)
50,000円(ライブラリー価格)